

## 浜林生之助のこと(5)

——ある英文学者の伝記——

東 博 通

### 浜林生之助執筆目録

この目録は本篇「浜林生之助のこと(1)～(4)」の付録を成すものである。生之助が書いて活字になったもののうち、現時点で判る限りをここに記したが、これ以外にも存在する可能性が高い。目録を完全なものにするには、今後の調査に待たなければならない。生之助が雑誌の質問に答えた葉書回答や、受験生への忠言の類は載せていない。一方、講演内容が活字になったものは含めた。なお、実物を確認することができないものや、記載場所が明らかでないものを末尾に掲げた。(連載されたものには、回を示す番号を付した。)

#### 著書

- 1924 (大正13)年 11月 『英文構成法 (*The Construction of English Sentences for Japanese Students*)』 健文社  
 1925 (大正14)年 6月 『英語会話の実際 (*Examples of Conversational English*)』 (A. B. Lowndes との共著) 研究社  
 1930 (昭和5)年 10月 『英国文学巡礼』 健文社  
 1948 (昭和23)年 2月 『英語の背景』 北条書店 (新版が昭和34 (1959)年に研究社から発行されている)

#### 訳書・訳註書

- 1923 (大正12)年 1月 『盲人国 (*The Country of the Blind*)』 研究社  
 1924 (大正13)年 11月 『恋無情 (*The Melancholy Hussar of the German Legion*)』 健文社  
 12月 『獣人 (*When the World Was Young*)』 健文社  
 12月 『幻の園 (*The Door in the Wall*)』 健文社  
 1925 (大正14)年 3月 『蠹魚 (*Christopherson*)』 健文社  
 3月 『黒猫 (*The Black Cat*)』 健文社  
 6月 『女心 (*Once More*)』 健文社  
 9月 『見果てぬ夢 (*Will o' the Mill*)』 健文社  
 10月 『替え玉 (*The Changeling*)』 健文社  
 1926 (大正15)年 9月 『混戦 (*A Wire Entanglement*)』 健文社  
 1927 (昭和2)年 7月 『幽霊俵 (*The Phantom 'Rickshaw*)』 健文社

- 8月 『ハーディ短篇選集講義』 健文社  
 1930(昭和5)年 4月 『フィフティ・フェイマス・ストーリーズ講義』(監修) 健文社  
 10月 『バイオグラフィカル・ストーリーズ講義』(監修) 健文社  
 1931(昭和6)年 4月 『イソップ物語講義』(監修) 健文社  
 1933(昭和8)年 10月 『スケッチ・ブック講義』(監修) 健文社  
 1937(昭和12)年 4月 『ベーシック用例集』(C. K. Ogden 著 *Basic by Examples* の訳) 研究社

## 教科書・テキスト

- 1924(大正13)年 11月 *King's English Composition* (吉岡源一郎との共著) 興文社  
 1925(大正14)年 10月 *Elementary King's English Composition* (吉岡源一郎との共著) 興文社  
 10月 *Lessons in English Grammar* 英語教育社  
 1926(大正15)年 4月 *An Introduction to Modern Literature* 興文社  
 10月 *More Lessons in English Grammar* 英語教育社  
 1930(昭和5)年 5月 *Alpha of the Plough* 健文社  
 1933(昭和8)年 8月 *The Bright Readers* 修文館  
 1935(昭和10)年 2月 *Robert Lynd ("Y. Y.") Selected Essays* 修文館  
 12月 *The Man of Property* 荘人社  
 1936(昭和11)年 5月 *The Romance of Trade* 荘人社  
 1937(昭和12)年 4月 *The Dark Flower* 荘人社  
 4月 *Man and his Conquest of Nature* 荘人社  
 11月 *The Arrow Readers* 修文館

## 訳註

- 1916(大正5)年 1月 「*Christopherson* (G. Gissing) (1)」『英語研究』第9巻第1号  
 2月 「*Christopherson* (G. Gissing) (2)」『英語研究』第9巻第2号  
 3月 「*Christopherson* (G. Gissing) (3)」『英語研究』第9巻第3号  
 4月 「*On Running after one's Hat* (ものは見よう) (G. K. Chesterton)」  
 『英語研究』第9巻第4号  
 5月 「*Christopherson* (G. Gissing) (4)」『英語研究』第9巻第5号  
 6月 「*Christopherson* (G. Gissing) (5)」『英語研究』第9巻第6号  
 7月 「*Christopherson* (G. Gissing) (6)」『英語研究』第9巻第7号  
 8月 「*Christopherson* (G. Gissing) (7)」『英語研究』第9巻第8号  
 9月 「*Christopherson* (G. Gissing) (8)」『英語研究』第9巻第9号

- 1917 (大正6) 年
- 10月 「*Christopherson* (G. Gissing) (9)」『英語研究』第9巻第10号
  - 11月 「*Christopherson* (G. Gissing) (10)」『英語研究』第9巻第11号
  - 1月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (1)」『英語研究』第10巻第1号
  - 2月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (2)」『英語研究』第10巻第2号
  - 3月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (3)」『英語研究』第10巻第3号
  - 4月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (4)」『英語研究』第10巻第4号
  - 5月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (5)」『英語研究』第10巻第5号
  - 6月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (6)」『英語研究』第10巻第6号
  - 7月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (7)」『英語研究』第10巻第7号
  - 8月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (8)」『英語研究』第10巻第8号
  - 9月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (9)」『英語研究』第10巻第9号
  - 10月 「*The Crystal Egg* (水晶の卵) (H. G. Wells) (10)」『英語研究』第10巻第10号
- 1918 (大正7) 年
- 10月 「*It Was Dreadful in the Forest* (恐しき森の一夜) (C. Doyle) (1)」『英語研究』第11巻第10号
  - 11月 「*It Was Dreadful in the Forest* (恐しき森の一夜) (C. Doyle) (2)」『英語研究』第11巻第11号
  - 12月 「*It Was Dreadful in the Forest* (恐しき森の一夜) (C. Doyle) (3)」『英語研究』第11巻第12号
- 1919 (大正8) 年
- 1月 「*The Adventure of the Prima Donna* (報恩) (A. Bennett) (1)」『英語研究』第12巻第1号
  - 2月 「*The Adventure of the Prima Donna* (報恩) (A. Bennett) (2)」『英語研究』第12巻第2号
  - 3月 「*The Adventure of the Prima Donna* (報恩) (A. Bennett) (3)」『英語研究』第12巻第3号
  - 4月 「*At Midnight on the Moor* (あらしの夜) (E. P. Oppenheim) (1)」『英語研究』第12巻第4号
  - 5月 「*At Midnight on the Moor* (あらしの夜) (E. P. Oppenheim) (2)」『英語研究』第12巻第5号
  - 6月 「*At Midnight on the Moor* (あらしの夜) (E. P. Oppenheim) (3)」『英語研究』第12巻第6号

- 6月 「*A Runaway* (逃走) (F. Anstey) (1)」『英語研究』第12巻第6号
- 7月 「*A Runaway* (逃走) (F. Anstey) (2)」『英語研究』第12巻第7号
- 9月 「*A Runaway* (逃走) (F. Anstey) (3)」『英語研究』第12巻第9号
- 10月 「*A Runaway* (逃走) (F. Anstey) (4)」『英語研究』第12巻第10号
- 11月 「*An Empty Box* (から箱) (A. Hope) (1)」『英語研究』第12巻第11号
- 12月 「*An Empty Box* (から箱) (A. Hope) (2)」『英語研究』第12巻第12号
- 1920 (大正9) 年
- 1月 「*The Doctor's Dilemma* (医師の窮境) (G. B. Shaw) (1)」『英語研究』第13巻第1号
- 2月 「*The Doctor's Dilemma* (医師の窮境) (G. B. Shaw) (2)」『英語研究』第13巻第2号
- 3月 「*The Doctor's Dilemma* (医師の窮境) (G. B. Shaw) (3)」『英語研究』第13巻第3号
- 4月 「*Life of Blake* (詩人ブレイク小伝) (Lafcadio Hearn) (1)」『英語研究』第13巻第4号
- 5月 「*Life of Blake* (詩人ブレイク小伝) (Lafcadio Hearn) (2)」『英語研究』第13巻第5号
- 6月 「*The Fir-tree* (樅の樹) (E. V. Lucas) (1)」『英語研究』第13巻第6号
- 7月 「*The Fir-tree* (樅の樹) (E. V. Lucas) (2)」『英語研究』第13巻第7号
- 8月 「*Taking a Picture* (写真) (Jerome K. Jerome)」『英語研究』第13巻第8号
- 10月 「*Outlaw Jess* (賊) (Alice and Claude Askew) (1)」『英語研究』第13巻第10号
- 11月 「*Outlaw Jess* (賊) (Alice and Claude Askew) (2)」『英語研究』第13巻第11号
- 12月 「*Outlaw Jess* (賊) (Alice and Claude Askew) (3)」『英語研究』第13巻第12号
- 1921 (大正10) 年
- 1月 「*When the World was Young* (人か獣か) (Jack London) (1)」『英語研究』第14巻第1号
- 1月 「*The World's Greatest Secret* (世界最大の秘密) (Shaw Desmond) (1)」『英語研究』第14巻第1号
- 2月 「*When the World was Young* (人か獣か) (Jack London) (2)」『英語研究』第14巻第2号
- 2月 「*The World's Greatest Secret* (世界最大の秘密) (Shaw Desmond) (2)」『英語研究』第14巻第2号

- 3月 「*When the World was Young* (人か獣か) (Jack London) (3)」『英語研究』第14巻第3号
- 3月 「*The World's Greatest Secret* (世界最大の秘密) (Shaw Desmond) (3)」『英語研究』第14巻第3号
- 4月 「*When the World was Young* (人か獣か) (Jack London) (4)」『英語研究』第14巻第4号
- 5月 「*When the World was Young* (人か獣か) (Jack London) (5)」『英語研究』第14巻第5号
- 7月 「*After Twenty Years* (二十年後) (O. Henry) (1)」『英語研究』第14巻第7号
- 9月 「*After Twenty Years* (二十年後) (O. Henry) (2)」『英語研究』第14巻第9号
- 10月 「*A Broken Looking-glass* (こわれた鏡) (Henry Harland) (1)」『英語研究』第14巻第10号
- 11月 「*A Broken Looking-glass* (こわれた鏡) (Henry Harland) (2)」『英語研究』第14巻第11号
- 12月 「*A Broken Looking-glass* (こわれた鏡) (Henry Harland) (3)」『英語研究』第14巻第12号
- 1922 (大正 11) 年 1月 「*The Changeling* (替え玉) (W. W. Jacobs) (1)」『英語研究』第15巻第1号
- 1月 「*Does Your Soul Leave Your Body While You Sleep?* (魂の抜け出る話) (Philippa Forest) (1)」『英語研究』第15巻第1号
- 2月 「*The Changeling* (替え玉) (W. W. Jacobs) (2)」『英語研究』第15巻第2号
- 2月 「*Does Your Soul Leave Your Body While You Sleep?* (魂の抜け出る話) (Philippa Forest) (2)」『英語研究』第15巻第2号
- 3月 「*The Changeling* (替え玉) (W. W. Jacobs) (3)」『英語研究』第15巻第3号
- 4月 「*The Changeling* (替え玉) (W. W. Jacobs) (4)」『英語研究』第15巻第4号
- 5月 「*The Changeling* (替え玉) (W. W. Jacobs) (5)」『英語研究』第15巻第5号
- 7月 「*Once More* (もう一度) (John Galsworthy) (1)」『英語研究』第15巻第7号
- 9月 「*Once More* (もう一度) (John Galsworthy) (2)」『英語研究』第15巻第9号
- 10月 「*Once More* (もう一度) (John Galsworthy) (3)」『英語研究』第15巻第10号
- 11月 「*Once More* (もう一度) (John Galsworthy) (4)」『英語研究』第15巻第11号

- 1923 (大正 12) 年
- 12月 「*The Impertinence of the Creature* (失敬な奴) (Cosmo Gordon-Lennox) (1)」『英語研究』第15巻第12号
- 1月 「*The Impertinence of the Creature* (失敬な奴) (Cosmo Gordon-Lennox) (2)」『英語研究』第16巻第1号
- 4月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (1)」『英語研究』第16巻第4号
- 5月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (2)」『英語研究』第16巻第5号
- 6月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (3)」『英語研究』第16巻第6号
- 7月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (4)」『英語研究』第16巻第7号
- 8月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (5)」『英語研究』第16巻第8号
- 9月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (6)」『英語研究』第16巻第9号
- 10月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (7)」『英語研究』第16巻第10号
- 11月 「*Red and White* (はつ恋) (Roland Pertwee) (8)」『英語研究』第16巻第11号
- 1924 (大正 13) 年
- 4月 「*A Miller of Dee* (渡し守) (John Galsworthy)」『英語研究』第17巻第1号
- 6月 「*The Superstitious Man's Story* (迷信家の話) (Thomas Hardy)」『英語研究』第17巻第3号
- 11月 「*Saint-Pé* (セン・ペ) (Hubert Crackanthorpe)」『英語研究』第17巻第8号
- 1925 (大正 14) 年
- 4月 「*Fowl Play* (とり殺し) (Ian Hay)」『英語研究』第18巻第1号
- 1926 (大正 15) 年
- 8月 「*The Man Who Didn't Matter* (どうでもよい男) (Roland Pertwee)」『上級英語』第1巻第5号

## 英訳

- 1927 (昭和 2) 年
- 1月 「嬰兒殺し (山本有三作) (1)」『上級英語』第1巻第10号
- 2月 「嬰兒殺し (山本有三作) (2)」『上級英語』第1巻第11号
- 3月 「嬰兒殺し (山本有三作) (3)」『上級英語』第1巻第12号

## 論文・評論・随筆・旅行記・その他

- 1919 (大正 8) 年
- 1月 「入学試験問題中に見えたる誤りやすき構文 (1)」『英語研究』第12巻第1号

- 2月 「入学試験問題中に見えたる誤りやすき構文(2)」『英語研究』第12卷第2号
- 3月 「入学試験問題中に見えたる誤りやすき構文(3)」『英語研究』第12卷第3号
- 4月 「入学試験問題中に見えたる誤りやすき構文(4)」『英語研究』第12卷第4号
- 1920(大正9)年 1月 「試験問題の出所(1)」『英語研究』第13卷第1号
- 2月 「試験問題の出所(2)」『英語研究』第13卷第2号
- 3月 「試験問題の出所(3)」『英語研究』第13卷第3号
- 4月 「試験問題の出所(4)」『英語研究』第13卷第4号
- 6月 「試験問題の出所(5)」『英語研究』第13卷第6号
- 7月 「試験問題の出所(6)」『英語研究』第13卷第7号
- 9月 「試験問題の出所(7)」『英語研究』第13卷第9号
- 1921(大正10)年 10月 「英作文の基礎(1)」『英語研究』第14卷第10号
- 11月 「英作文の基礎(2)」『英語研究』第14卷第11号
- 12月 「英作文の基礎(3)」『英語研究』第14卷第12号
- 1922(大正11)年 1月 「英作文の基礎(4)」『英語研究』第15卷第1号
- 2月 「英作文の基礎(5)」『英語研究』第15卷第2号
- 3月 「英作文の基礎(6)」『英語研究』第15卷第3号
- 4月 「英作文の基礎(7)」『英語研究』第15卷第4号
- 5月 「英作文の基礎(8)」『英語研究』第15卷第5号
- 5月 「入学試験問題の研究「小樽高等商業学校」」『英語研究』第15卷第5号
- 6月 「英作文の基礎(9)」『英語研究』第15卷第6号
- 9月 「英作文の基礎(10)」『英語研究』第15卷第9号
- 1923(大正12)年 4月 「受験準備英文解釈(1)」『英語研究』第16卷第4号
- 5月 「受験準備英文解釈(2)」『英語研究』第16卷第5号
- 5月 「英作文の練習(1)」『英語研究』第16卷第5号
- 7月 「英作文の練習(2)」『英語研究』第16卷第7号
- 7月 「受験準備のための英文解釈研究」『英語研究』第16卷第7号
- 8月 「英作文の練習(3)」『英語研究』第16卷第8号
- 9月 「英作文の練習(4)」『英語研究』第16卷第9号
- 10月 「英作文の練習(5)」『英語研究』第16卷第10号
- 12月 「英作文の練習(6)」『英語研究』第16卷第12号
- 12月 「和文英訳の力は受験戦の間道」『英語研究』第16卷第12号
- 1924(大正13)年 1月 「英文解釈の基礎」『英語研究』第16卷第13号

- 1月 「英作文の練習（7）」『英語研究』第16巻13号
- 2月 「受験準備中の甥に與うるの書」『英語研究』第16巻14号
- 2月 「常識応用英文解釈法」『英語研究』第16巻14号
- 3月 「英作文の練習（8）」『英語研究』第16巻15号
- 7月 「英作文の練習（9）」『英語研究』第17巻第4号
- 8月 「英作文の練習（10）」『英語研究』第17巻第5号
- 10月 「和文英訳第二講座」『英語研究』第17巻第7号
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（1）」小樽新聞 12月11日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（2）」小樽新聞 12月12日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（3）」小樽新聞 12月13日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（4）」小樽新聞 12月15日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（5）」小樽新聞 12月16日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（6）」小樽新聞 12月17日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（7）」小樽新聞 12月18日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（8）」小樽新聞 12月19日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（9）」小樽新聞 12月20日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（10）」小樽新聞 12月23日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（11）」小樽新聞 12月24日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（12）」小樽新聞 12月25日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（13）」小樽新聞 12月26日
- 12月 「作品を通して見たるハーディの人生観（14）」小樽新聞 12月27日
- 1925（大正14）年 7月 「緑陰読書」小樽高商新聞『緑丘』7月1日
- 10月 「和文英訳のこつ」『英語研究』第18巻第7号
- 10月 「汽車の中で」小樽高商新聞『緑丘』10月6日
- 1926（大正15）年 1月 「林檎」小樽高商新聞『緑丘』1月25日
- 3月 「時文を読む利益」『英語研究』第18巻第12号
- 4月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話（1）」『上級英語』第1巻第1号
- 5月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話（2）」『上級英語』第1巻第2号
- 5月 「本年度入学試験問題の研究（1）」『上級英語』第1巻第2号
- 6月 「本年度入学試験問題の研究（2）」『上級英語』第1巻第3号
- 6月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話（3）」『上級英語』第1巻第3号
- 7月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話（4）」『上級英語』第1巻第4号



- 9月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話(5)」『上級英語』第1巻第6号
- 10月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話(6)」『上級英語』第1巻第7号
- 11月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話(7)」『上級英語』第1巻第8号
- 11月 「読書雑感(1)」北海タイムズ11月7日
- 11月 「読書雑感(2)」北海タイムズ11月8日
- 11月 「読書雑感(3)」北海タイムズ11月9日
- 11月 「読書雑感(4)」北海タイムズ11月11日
- 11月 「読書雑感(5)」北海タイムズ11月12日
- 11月 「読書雑感(6)」北海タイムズ11月14日
- 12月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話(8)」『上級英語』第1巻第9号
- 1927(昭和2)年 1月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話(9)」『上級英語』第1巻第10号
- 2月 「入学試験問題中心 最新和文英訳講話(10)」『上級英語』第1巻第11号
- 6月 「英国まで——鹿島丸船中にて(1)」小樽新聞朝刊6月20日
- 6月 「英国まで——鹿島丸船中にて(2)」小樽新聞朝刊6月27日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(3)」小樽新聞朝刊7月4日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(4)」小樽新聞朝刊7月5日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(5)」小樽新聞朝刊7月6日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(6)」小樽新聞朝刊7月11日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(7)」小樽新聞朝刊7月17日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(8)」小樽新聞朝刊7月18日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(9)」小樽新聞朝刊7月25日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(10)」小樽新聞朝刊7月30日
- 7月 「英国まで——鹿島丸船中にて(11)」小樽新聞朝刊7月31日
- 8月 「英国まで——鹿島丸船中にて(12)」小樽新聞朝刊8月3日
- 8月 「英国まで——鹿島丸船中にて(13)」小樽新聞朝刊8月(日付不明)
- 8月 「英国まで——鹿島丸船中にて(14)」小樽新聞朝刊8月(日付不明)
- 8月 「英国まで——鹿島丸船中にて(15)」小樽新聞朝刊8月8日
- 8月 「英国まで——鹿島丸船中にて(16)」小樽新聞朝刊8月15日
- 8月 「英国まで——鹿島丸船中にて(17)」小樽新聞朝刊8月22日
- 8月 「英国まで——鹿島丸船中にて(18)」小樽新聞朝刊8月31日
- 9月 「英国まで——鹿島丸船中にて(19)」小樽新聞朝刊9月12日

- 9月 「英国まで——鹿島丸船中にて (20)」小樽新聞朝刊9月26日  
 9月 「英国まで——鹿島丸船中にて (21)」小樽新聞朝刊9月30日  
 10月 「英国まで——鹿島丸船中にて (22)」小樽新聞朝刊10月1日  
 10月 「英国まで——鹿島丸船中にて (23)」小樽新聞朝刊10月3日  
 10月 「英京の宿から一みなさんに一」小樽高商新聞『緑丘』10月18日  
 1928 (昭和3)年 4月 「Thomas Hardy 逝く」『英語青年』第59巻第1号  
 10月 「"i cum"及びEliotの墓」『英語青年』第60巻第1号  
 1930 (昭和5)年 1月 「詩人バーンズの遺跡を訪ねて (1)」『英語研究』第22巻第10号  
 2月 「詩人バーンズの遺跡を訪ねて (2)」『英語研究』第22巻第11号  
 2月 「FORSYTE SAGA (1)」小樽高商新聞『緑丘』2月25日  
 3月 「詩人バーンズの遺跡を訪ねて (3)」『英語研究』第22巻第12号  
 3月 「FORSYTE SAGA (2)」小樽高商新聞『緑丘』3月10日  
 4月 「詩人バーンズの遺跡を訪ねて (4)」『英語研究』第23巻第1号  
 4月 「FORSYTE SAGA (3)」小樽高商新聞『緑丘』4月25日  
 4月 「旅の思い出」校友会誌『緑丘学人』第41号  
 1932 (昭和7)年 2月 「大西さんのこと」小樽高商新聞『緑丘』2月23日  
 4月 「「ゲーテ百年祭」に因みて (1)」小樽高商新聞『緑丘』4月26日  
 6月 「「ゲーテ百年祭」に因みて (2)」小樽高商新聞『緑丘』6月28日  
 12月 「*Angel Pavement* を読む」『英語研究』第25巻第9号  
 1933 (昭和8)年 11月 「Galsworthy : *Forsyte Chronicles*」『英語研究』第26巻第8号  
 1934 (昭和9)年 12月 「倫敦の横顔」校友会誌『緑丘学人』第46号  
 1936 (昭和11)年 5月 「出席点数制について」小樽高商新聞『緑丘』5月15日  
 7月 「新緑を語る——二十五周年に因みて——」小樽高商新聞『緑丘』7月5日  
 8月 「Galsworthyの小説を通して見たる英国人」『英文学研究』第16巻第3号  
 8月 「近代英文学を通して見たる信仰の動揺」小樽高商新聞『緑丘』8月13日  
 9月 「満鮮の旅から (1)」小樽新聞朝刊9月20日  
 10月 「満鮮の旅から (2)」小樽新聞朝刊10月4日  
 10月 「満鮮の旅から (3)」小樽新聞朝刊10月25日  
 1937 (昭和12)年 6月 「夏一旅一書物」小樽高商新聞『緑丘』6月19日  
 10月 「時事雑感」小樽高商新聞『緑丘』10月25日  
 1938 (昭和13)年 9月 「読書雑感」小樽高商新聞『緑丘』9月25日  
 1939 (昭和14)年 1月 「新興波斯の横顔」小樽高商新聞『緑丘』1月25日  
 4月 「このごろの記」小樽高商新聞『緑丘』4月25日

- 10月 「英国の汽車」『英語研究』第32巻7号
- 1940(昭和15)年 7月 「思い出すことなど」小樽高商新聞『緑丘』7月25日
- 1941(昭和16)年 8月 「南洋と英文学」小樽高商新聞『緑丘』8月25日
- 1942(昭和17)年 1月 「旅行と読書と」『学苑』第9巻1号
- 1月 「大東亜戦争と英米国民性」小樽高商新聞『緑丘』1月25日
- 6月 「論語」小樽高商新聞『緑丘』6月25日
- 1943(昭和18)年 11月 「米国々民性について」小樽高商新聞『緑丘』11月25日
- 12月 「小樽だより一秋から冬へー」小樽高商新聞『緑丘』12月25日
- 1944(昭和19)年 6月 「硯滴」小樽高商新聞『緑丘』6月25日
- 11月 「勤労と学徒」小樽高商新聞『緑丘』11月25日
- 1946(昭和21)年 3月 「「草の葉」の印象」小樽高商新聞『緑丘』3月25日

実物を確認できないもの

訳註書

1930(昭和5)年～1933(昭和8)年

- 『サーティ・フェイマス・ストーリーズ講義』(監修) 健文社
- 『ラウンド・ザ・ワールド・ウィズ・ファーザ講義』(監修) 健文社
- 『ロビンソン・クルソウ講義』(監修) 健文社
- 『グリムズ・フェアリ・テイルズ講義』(監修) 健文社
- 『アラビアン・ナイツ講義』(監修) 健文社
- 『ストーリーズ・フロム・シェイクスピア講義』(監修) 健文社
- 『エスウィックス・フォア・ヤング・ピープル講義』(監修) 健文社
- 『ストーリーズ・フロム・イングリッシュ・ヒストリ講義』(監修) 健文社
- 『アンデルセンズ・フェアリ・テイルズ講義』(監修) 健文社
- 『テイルズ・フロム・シェイクスピア講義』(監修) 健文社

副読本

1933(昭和8)年 1月 *New Aesop's Fables* 柳沢書店

訳註

- 1915(大正4)年 8月 「*The Somnambulist* (夢中遊行者) (*Tess* の一部) (Thomas Hardy) (1)」『英語研究』第8巻第8号
- 9月 「*The Somnambulist* (夢中遊行者) (*Tess* の一部) (Thomas Hardy) (2)」『英語研究』第8巻第9号
- 10月 「*The Somnambulist* (夢中遊行者) (*Tess* の一部) (Thomas Hardy) (3)」『英語研究』第8巻第10号

- 1932 (昭和7)年 12月 「*Do One Thing at a Time (Chesterfield's Letters)*」 『英学生』  
1933 (昭和8)年 2~3月 「*Laziness* (Robert Lynd)」 『英学生』  
10~11月 「*The Story of Our World* (H. G. Wells)」 『English』  
10~11月 「*The Shops* (Arnold Bennett)」 『English』

記載場所が不明のもの

随筆

「ギッシングと愛書癖」

「靴屋 (上)」

「靴屋 (下)」

「あべこべ物語」

「新緑のおもいで」

「赤鱗の尻尾」

(この目録を作成するにあたり、神奈川大学出来成訓教授には、生之助が英語雑誌『上級英語』に寄稿したものについてご教示をいただいた。記して深謝の意を表したい。)